

ネット通販の前払いによるトラブルにご注意！



事例 ネットでベビー用品を注文し、代金はサイトに指定された銀行口座に前払いで振り込んだ。商品が届かないので、サイトに再三メールで催促したが返事がない。

トラブル回避のポイント

- ◆「商品が届かない」などの詐欺サイトに関する相談が増えています。
- ◆購入前に会社名、所在地、電話番号を確認しましょう。連絡手段がEメールだけの場合は特に注意が必要です。
- ◆前払いの銀行振込や海外の銀行への送金は消費者保護の手段が無いため、これらの支払い方法を指定された場合は購入を控えた方が良いでしょう。

11月9日～15日

秋の火災予防運動

「無防備な心に火災がかくれんぼ」

(平成27年度全国統一防火標語)

寒さが増し、暖房器具などを使用する機会が多くなるこれからの季節は、火災が発生しやすくなります。火気の取り扱いには十分注意しましょう。

問い合わせ

消防本部予防課 ☎20・2706

防火ポスターができました

350点の応募の中から消防長賞の2作品がポスターの図案に選ばれました。今後、町内会や事業所などで掲示します。



蓮田寿里さん(吾城小4年)



林優作さん(苗代小3年)

住宅防火 命を守る7つのポイント

3つの習慣

- ①寝たばこは絶対にやめる。
- ②ストーブは燃えやすいものから離れた位置で使用する。
- ③ガスコンロなどのそばを離れるときは、必ず火を消す。

4つの対策

- ①逃げ遅れを防ぐために、住宅用火災警報器を設置する。
- ②寝具、衣類及びカーテンからの火災を防ぐために、防災品を使用する。
- ③火災を小さいうちに消すために、住宅用消火器などを設置する。
- ④お年寄りや体の不自由な人を守るために、隣近所の協力体制をつくる。



みまっし、きくまっし 小松の方言

連載 212

加藤 和夫 ●金沢大学人間社会学域教授・日本語学

小松方言の語源 その37

京都語由来のハギシとコブラ

今回も前回、前々回に続いて、かつての中央語(京都語)由来の小松方言の中から、身体部位の方言をご紹介します。今回取り上げるのは、「**歯茎**」を指すハギシと「**ふくらはぎ**」を指すコブラです。

「**歯茎**」の方言ハギシは古語「**歯肉**」に由来

これまでも取り上げてきた身体部位を指す方言同様、共通語の普及で使う人は少なくなっていると思いますが、小松では「**歯茎**」を指すハギシという方言形が使われていました。

ハギシは、平安時代中期の漢字辞書『新撰字鏡』に「**歯茎**」の意味で載っている「**歯肉**(ハジシ)」の音変化形と考えて間違いないでしょう。ジとギは音

声的に近い音ですから、「ジ」から「ギ」への音の交替が起こったものと思われます。筆者の出身地である越前市(旧武生市)を含む福井県の嶺北地方では、広い範囲で古語ハジシの形のまゝ方言として使われており、筆者も虫歯で歯茎が腫れたときに、ハジシ ハレテ イターンニヤ(歯茎が腫れて痛いんだ)のように言っていました。

「**歯茎**」の意味の古語「**はじし**」の「**し**」は、奈良時代の『万葉集』や平安初期の史書『続日本紀』(797年)などに既に用例が見える「**肉**」(主として食用となる獣肉を指した)の意味の古語です。一方、「**歯茎**」の意味の「**はじし**」は、『新撰字鏡』のほか、平安時代中期(930年代)の辞書『和名類聚抄』に「**断**、**波之々**、**歯の肉也**」、平安時代末期の説話集『今昔物語』にも「**咲へば歯がちなる者の、はじしは赤くなむ見えける**」といった用例が見えます。

「**ふくらはぎ**」の方言「コブラ」は「**腓**」から

小松では「**ふくらはぎ**」のことを「コブラ」と言います。「**ふくらはぎ**」とは足のすねの後ろのふくらんだ部分を指します。筆者の手元にある現代語の辞書の一つ『新明解国語辞典第七版』(三省堂)には「**こむら**」という項目があり、『**ふくらはぎ**』の意の老人語」とありますので、共通語でも消えているわけではありませんが、「**こむら**」は平安時代の『和名類聚抄』に「**腓**、**古無良**、**脚腓也**」の例が見えるような古語です。かつての中央語でも「**こむら**」の「**む**」が音声的に近い「**ぶ**」に変化した「**こぶら**」の例も見えますから、「**こむら**」が北陸地方に伝播する途中で「**こぶら**」に変化したのか、中央で「**こぶら**」に変化した後に北陸に伝わったのかは定かではありません。

歴史の舞台裏

連載 205

「取り戻せ! 加賀建仁寺流」

8月にシンポジウム「加賀建仁寺流を取り戻せ」がありました。小松市史建築編にも関連しますので、今回はその中から文建協の賀古唯義先生のお話をまとめてみました。

江戸時代の宮大工には、四天王寺流と建仁寺流の2つの大きな流派がありました。前者は聖徳太子の建てた四天王寺を受け継ぎ、後者は禅宗を開いた栄西が建てた建仁寺の流れをくみます。この流派こそ、大工のリクルート活動の上で、大名に雇われるためのアピールポイントになったのです。

利家が北陸に入った時、連れて来た大工が建仁寺流でした。その主流派は江戸で徳川家に付いたのに対し、前田家は経済力に物を言わせ、次々と寺社を建立、宮大工は独自に進化し、後世に加賀建仁寺流の名を残しました。この建築ブームに登場したのが天才建築家山上善右衛門です。

善右衛門の代表作に、羽咋妙成寺、高岡瑞龍寺、そして那谷寺がありますが、那谷寺が最も建仁寺流のテキスト(木割書という)に忠実に造られ、善右衛門の特徴が一番色濃く出ています。

ところが、明治維新によって藩の組織が無くなり、宮大工は失業し、行き場を失って壊滅。建仁寺流は



▶那谷寺鐘楼(重文)

加賀の地から全く姿を消しました。残存する木割書と現存建造物を頼りに、建仁寺流の復興が待たれます。教育庶務課市史編纂担当

☎24・8274